

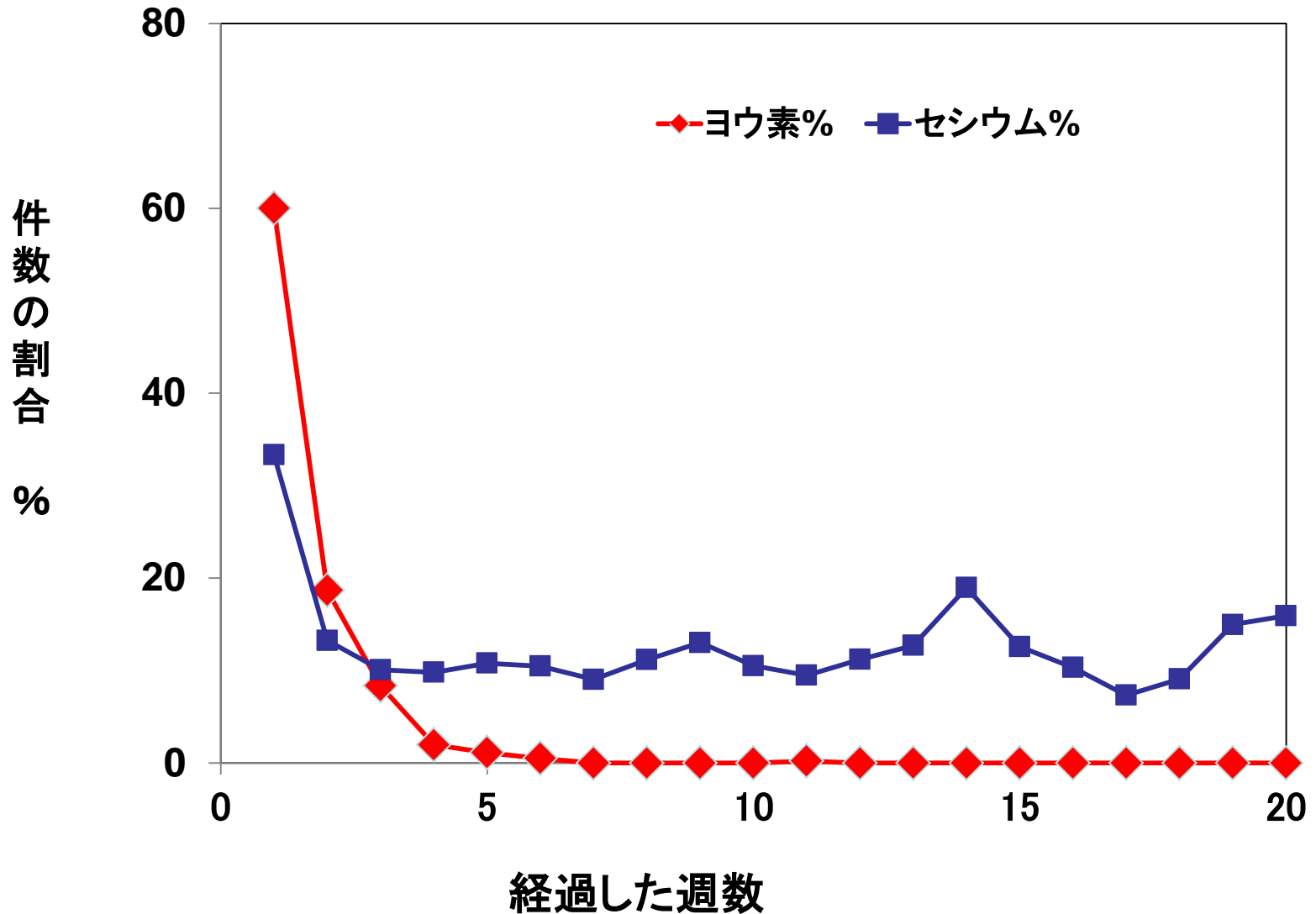
食べ物の放射能汚染

美作大学大学院 山口英昌

2012年9月までの厚生労働省データから、作成
10月～12月のデータも、可視化のために整理中です。
データは、
暫定規制値超え ■、新・規制値超え ■、新・規制値の50%超え ■ で整理した。

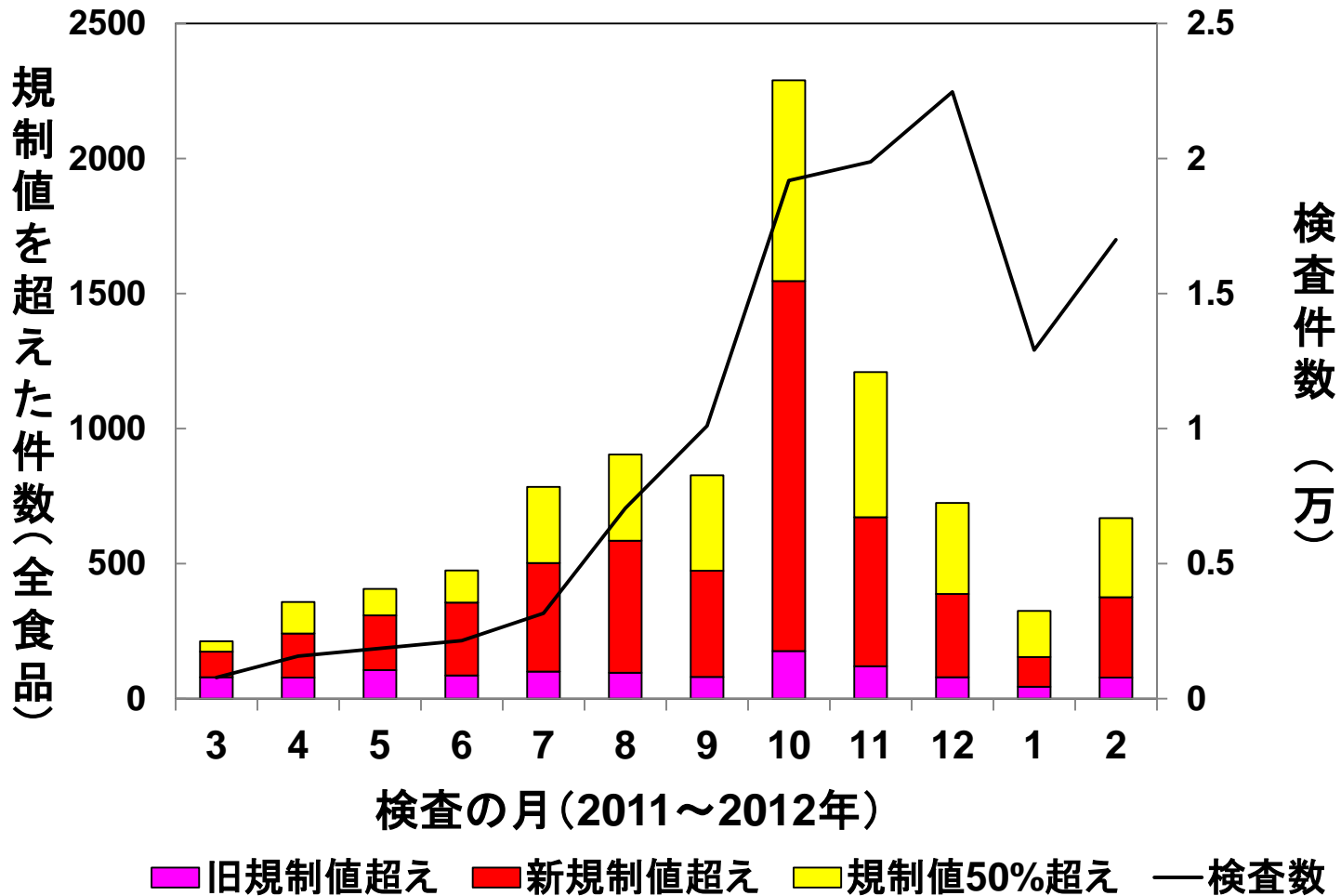
放射性物質(放射能) 汚染の実態

新・規制値を超えた件数の割合(事故後20週)



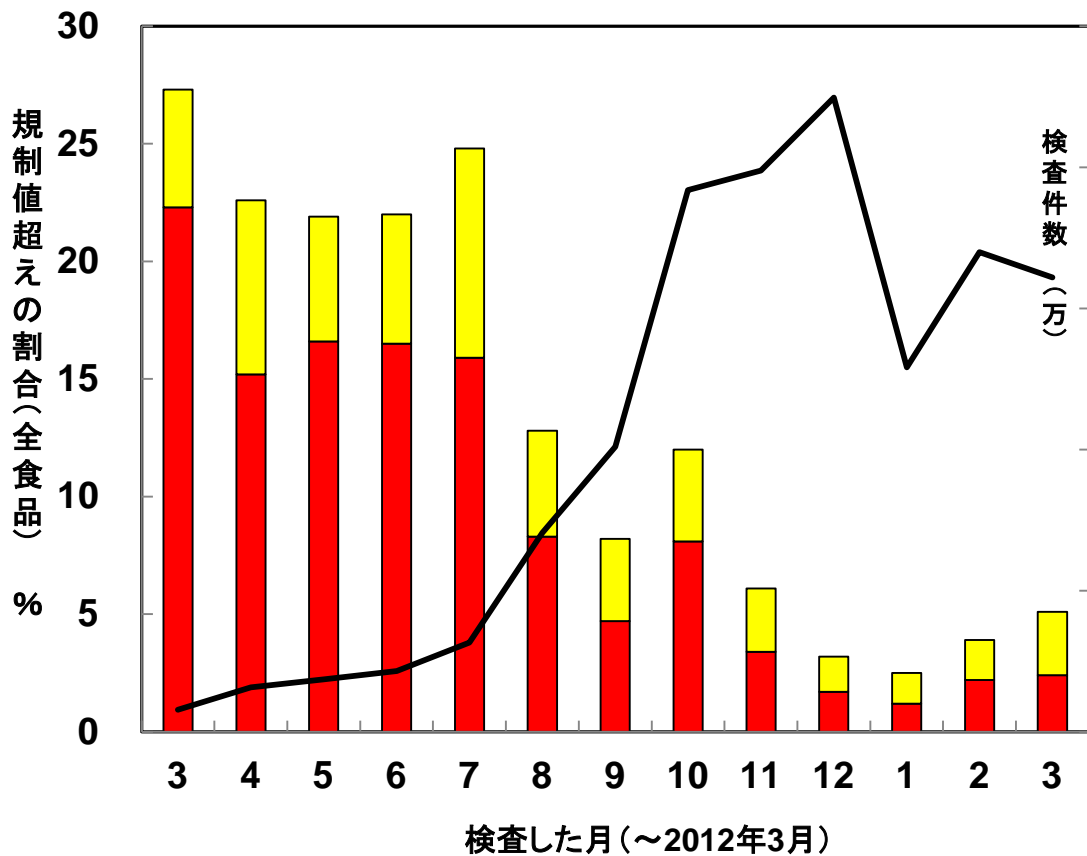
<せめて2か月、出荷停止にしておれば、少なくともヨウ素の汚染は避けられた>

規制値超え件数(全食品・セシウム)

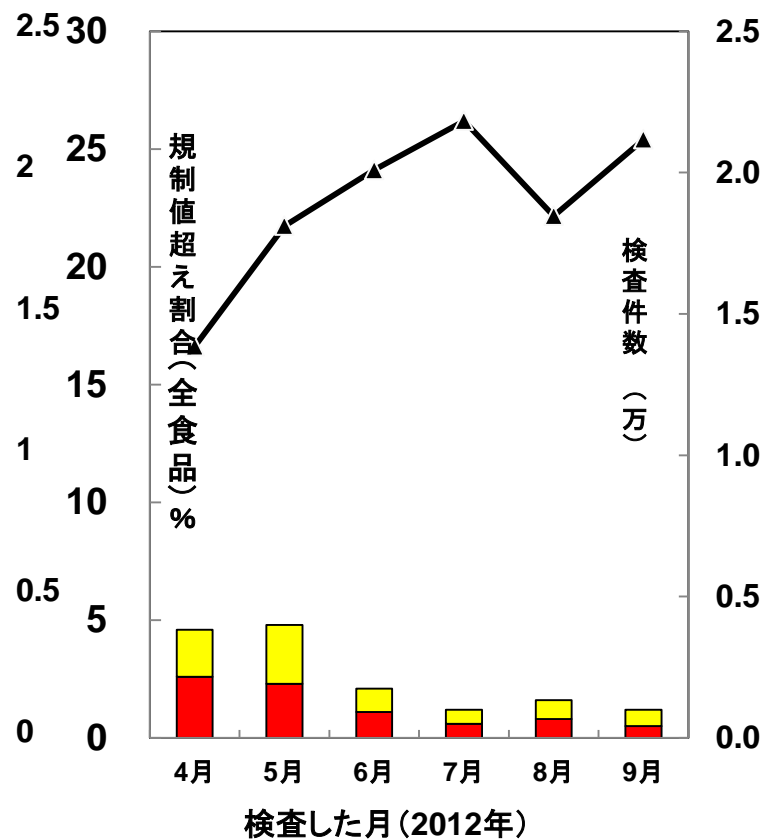


<暫定規制値超え ■ 件数の5倍~10倍が、新規規制値超え ■ となる>

全食品(セシウム137+134)



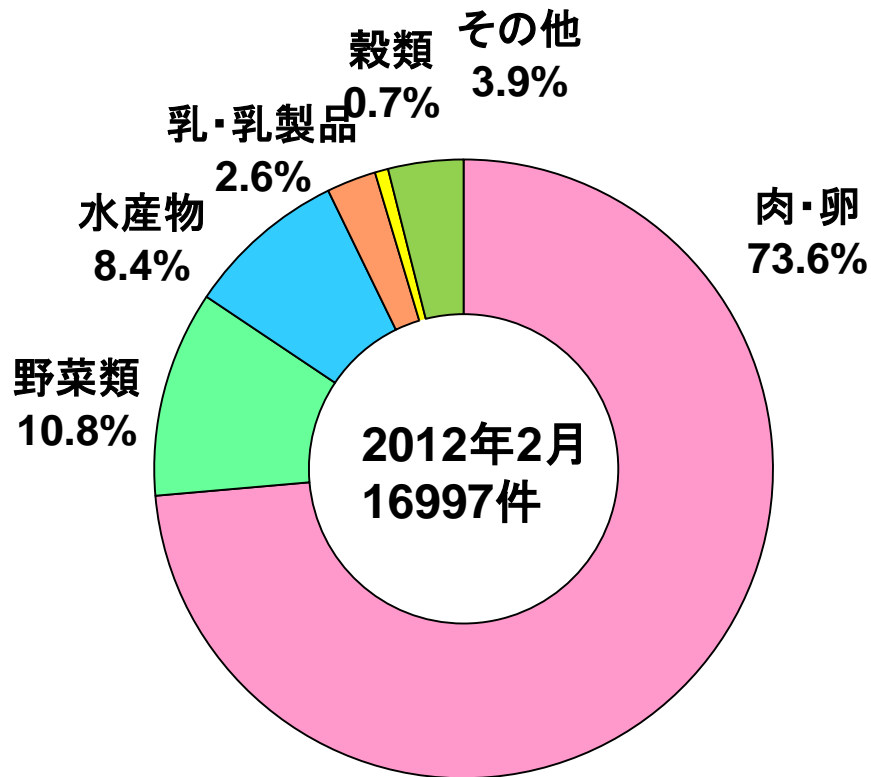
規制値50%超え
 新規制値超え
 検査数



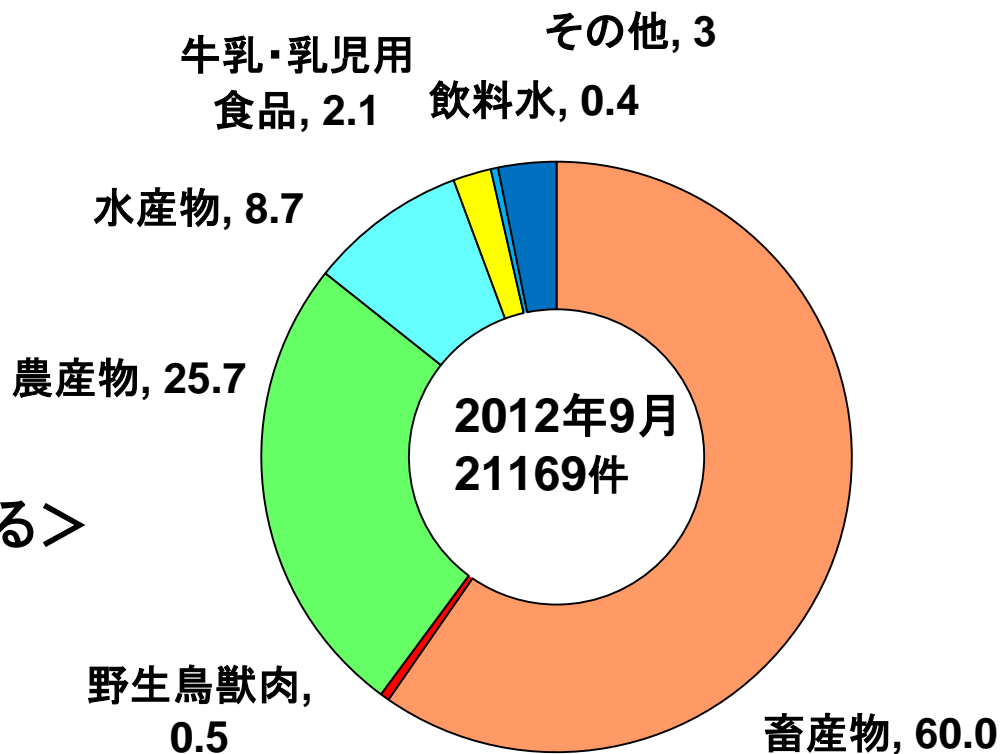
50%超え
 新規制値超え
 検査数

輸入食品の違反率と放射能規制値超えの割合を比較すると、後者が、数倍から10倍も大きい。

年	輸入 件数 (万)	輸入 重量 (千万)	検査数 (千)	検査率 %	違反 件数	違反率 %
1985	38.5	2.3	39.8	10.3	308	0.8
90	67.9	2.2	119.3	17.6	993	0.8
95	105.2	2.8	141.1	13.4	948	0.7
2000	155.1	3.0	112.3	7.2	1,037	0.9
05	186.4	3.4	189.4	10.2	935	0.5
2010	200.1	3.1	247.0	12.3	1376	0.6
11	209.6	3.3	231.8	11.1	1257	0.5

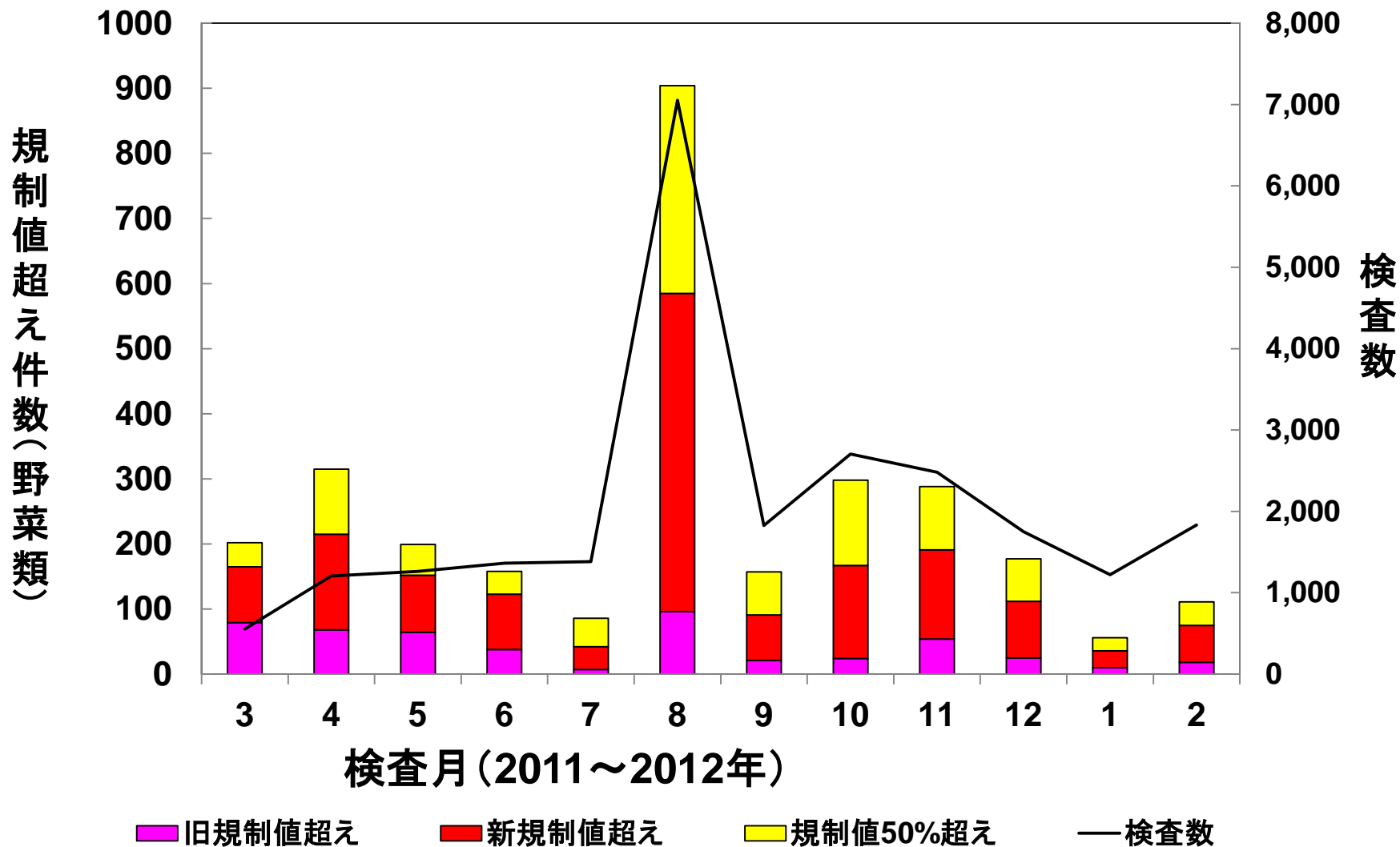


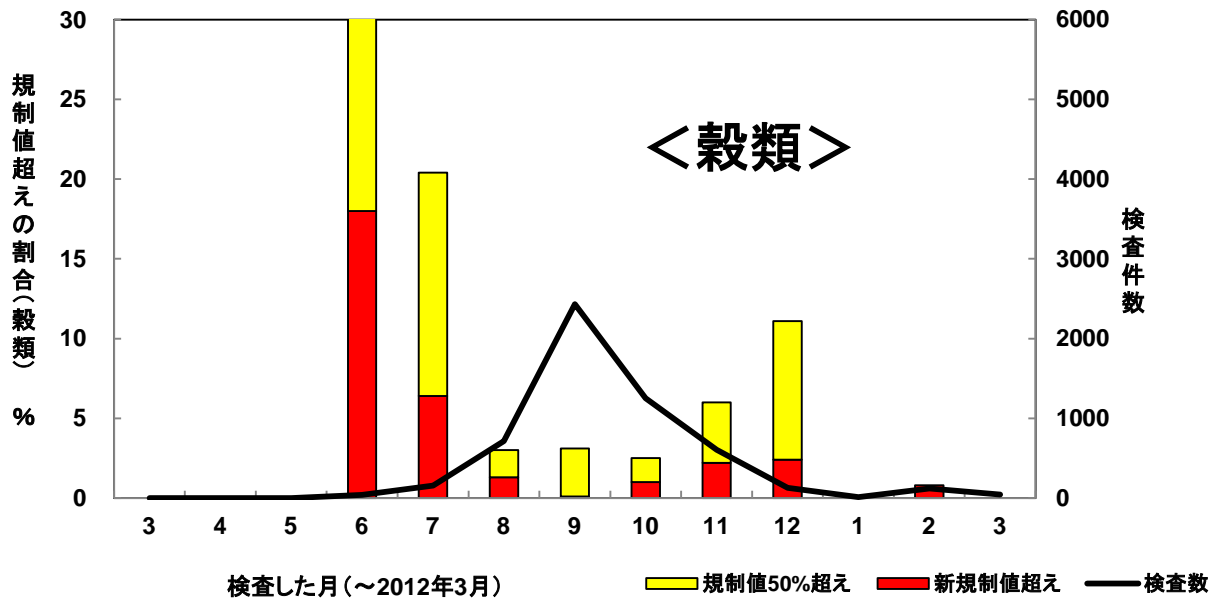
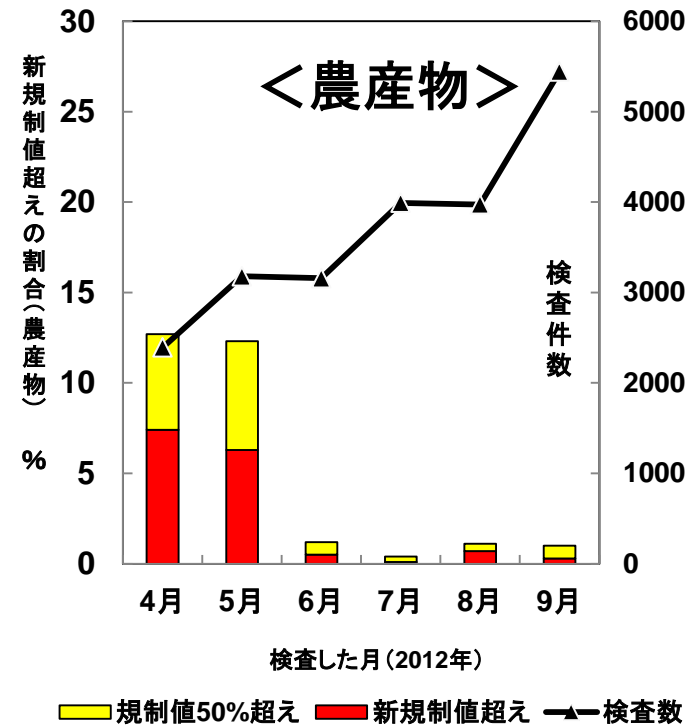
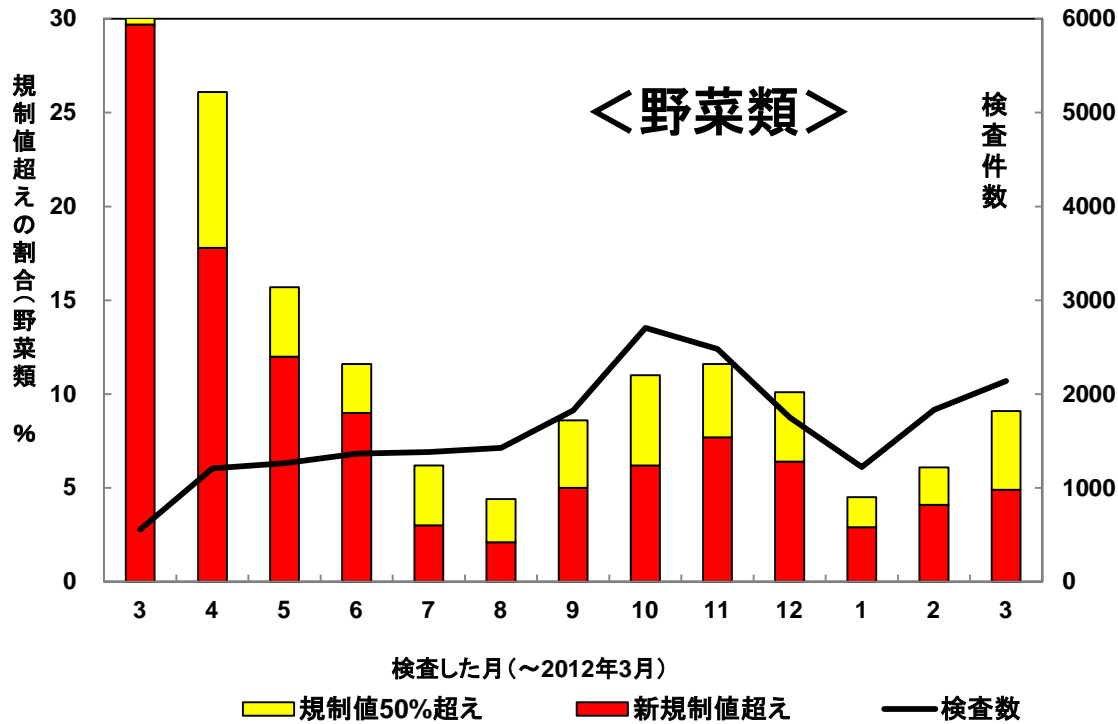
<全食品>



<牛肉の検査割合が突出している>

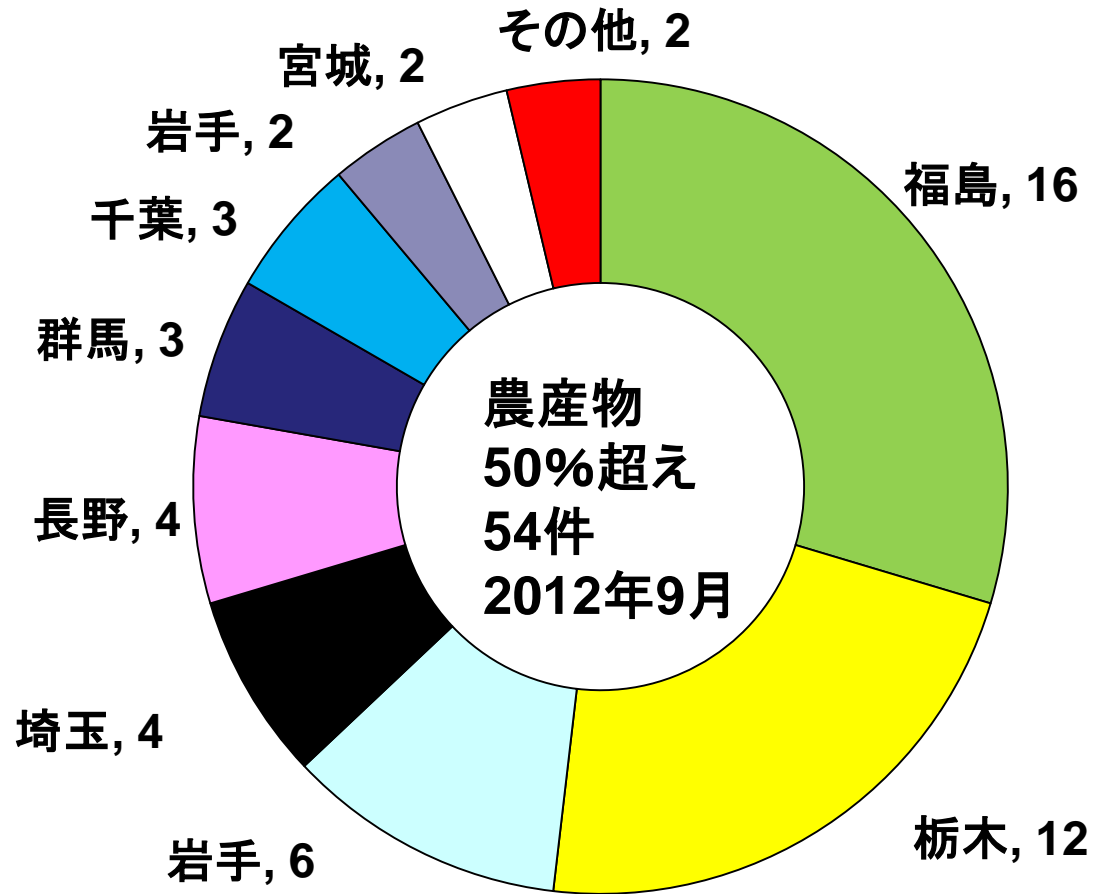
<野菜類> 規制値超えの件数



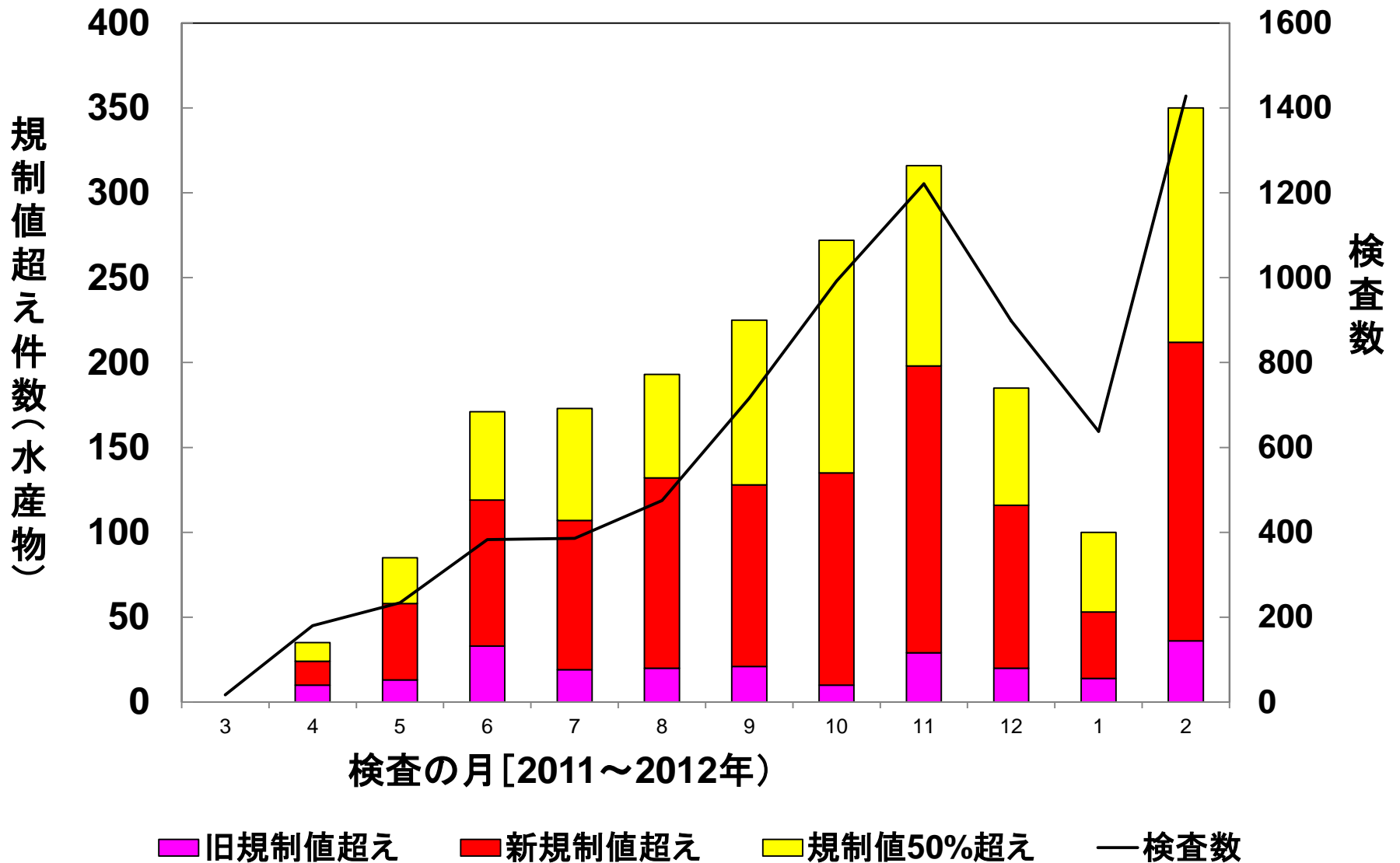


月／件	新・規制値超え 品目／件数	50%超え 品目／件数
8月	29	33
1428	きのこ10、しいたけ8、ゆず4、もも2	もも9、りんご4、ゆず4、きのこ3、ブルーベリー3、プルーン2、セリ2、イチジク2
10月	23	52
2707	しいたけ11、きのこ9、ゆず2	しいたけ31、きのこ7、ゆず5、ぎんなん2
12月	112	64
1752	しいたけ62、梅干し15、いもがら11、かき6、だいこん4、ゆず3	しいたけ21、いもがら9、柿6、梅干4、ゆず4、その他くだもの6、干いも2
2月	74	34
1834	しいたけ54、干だいこん11、干かき4、わさび2	しいたけ20、干だいこん5、干かき5
4月	178	124
2392	しいたけ102、たけのこ36、ごみみ12、タラの芽8、ふきのとう7、ほうれんそう1	しいたけ49、たけのこ43、ふきのとう8、わさび6、ごみみ5、タラの芽4、ほうれんそう1
6月	15	22
3158	たけのこ7、しいたけ3、うめ2	しいたけ9、うめ7、きのこ5
8月	29	15
3974	きのこ27、しいたけ2	しいたけ7、きのこ4、ミョウガ3
9月	15	39
5444	きのこ9、くり5、ゆず1	くり15、きのこ8、かき7、しいたけ5

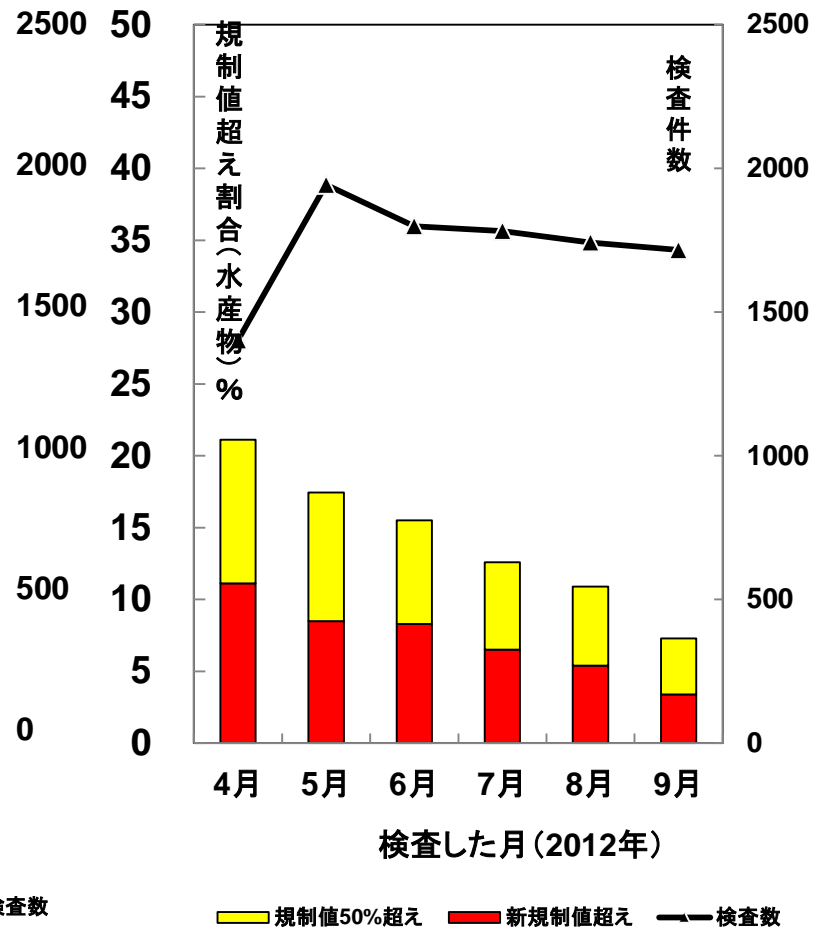
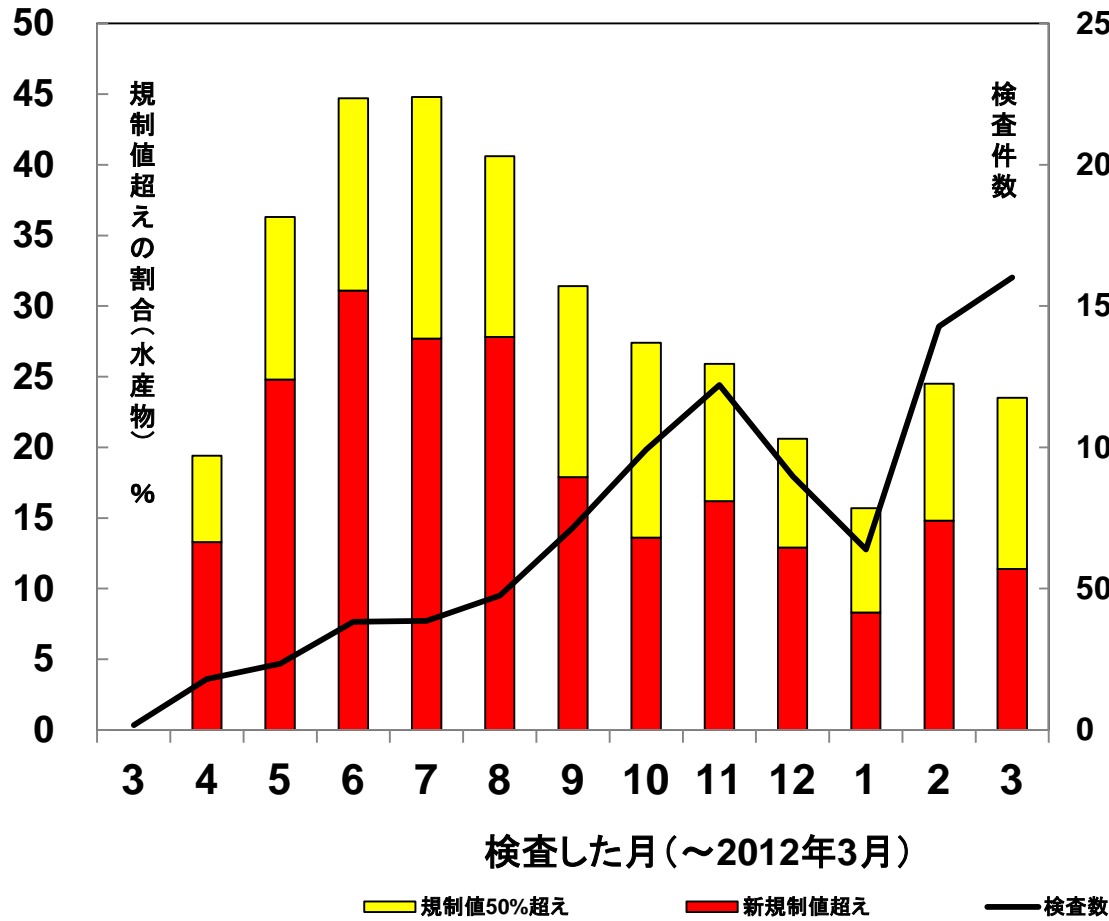
＜ 50%超え農産物の件数 産地別＞



＜水産物＞ 規制値超え件数

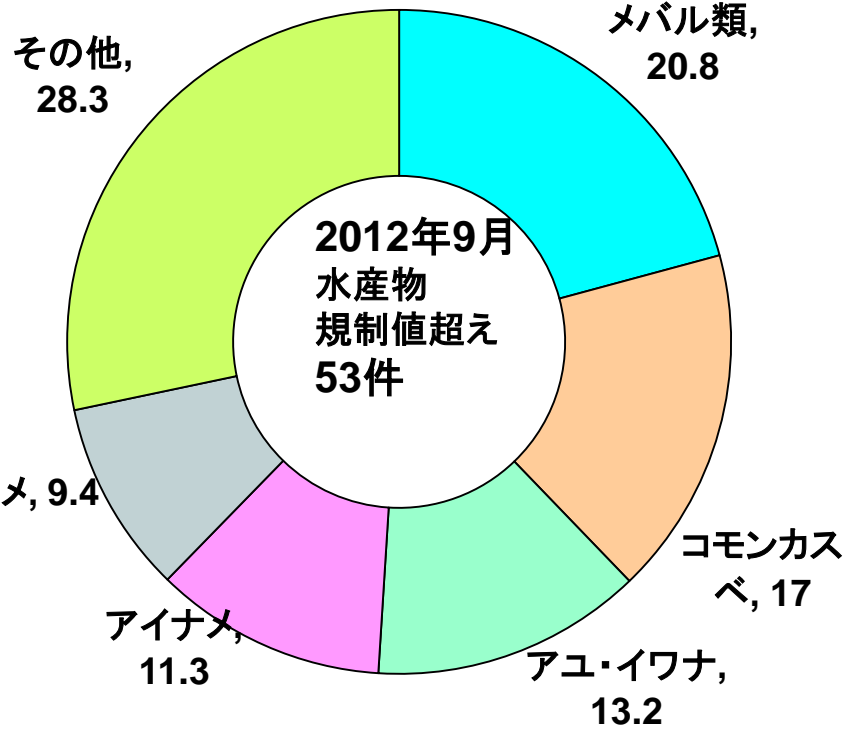
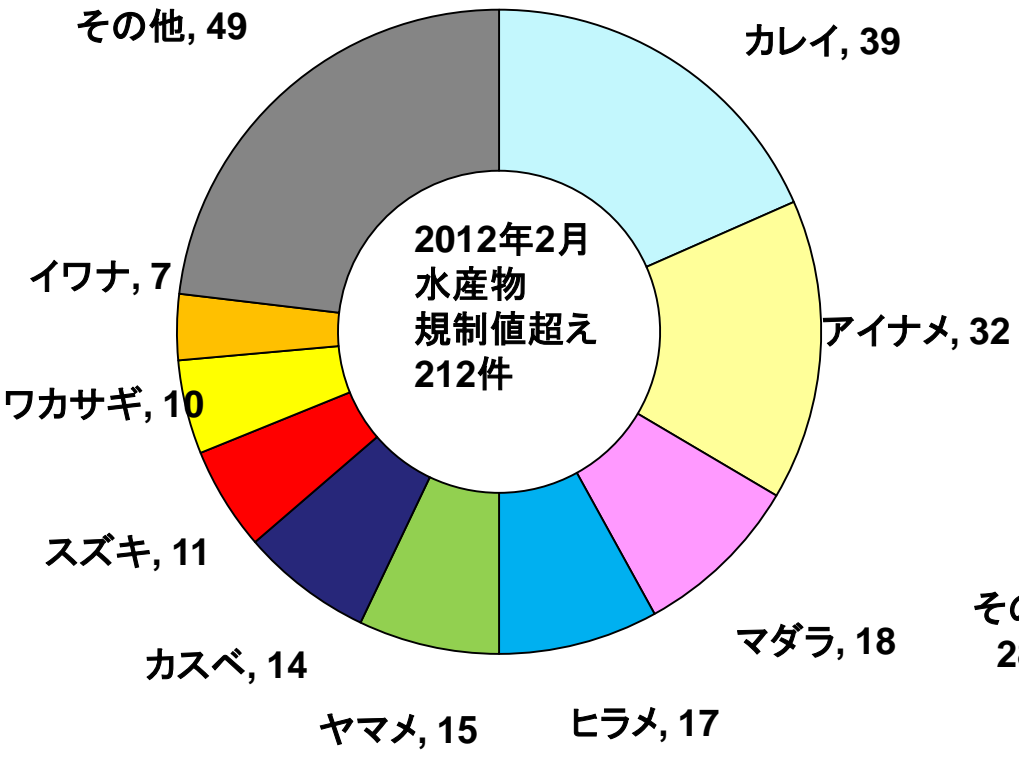


<水産物> 規制値超えの割合



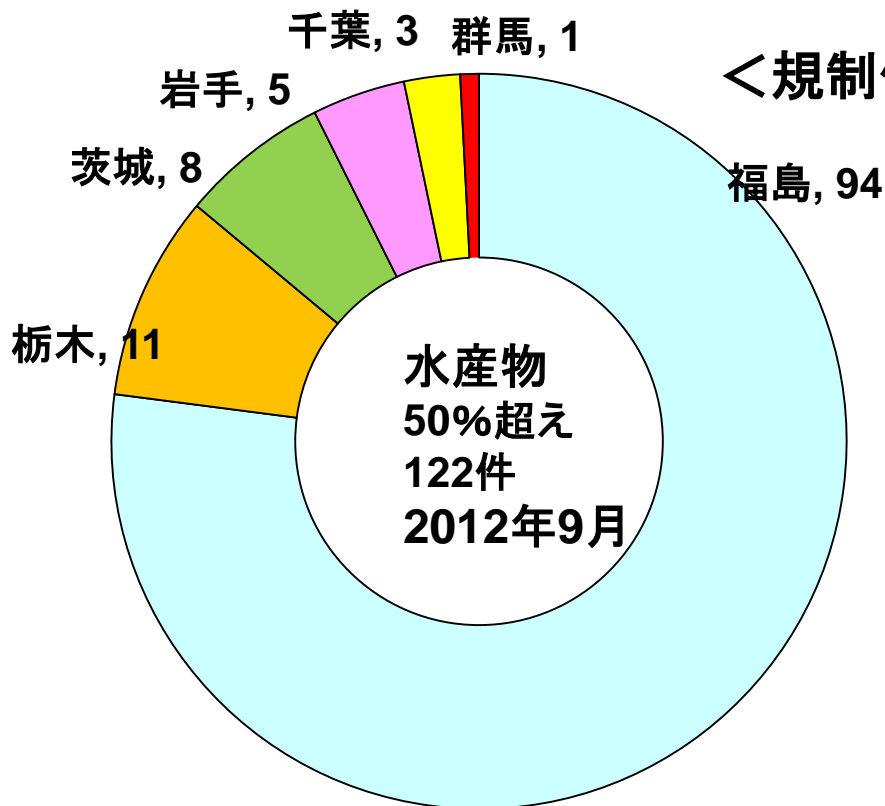
<水産物の規制値越えの割合は高い。これからも要注意>

<水産物> 品目別

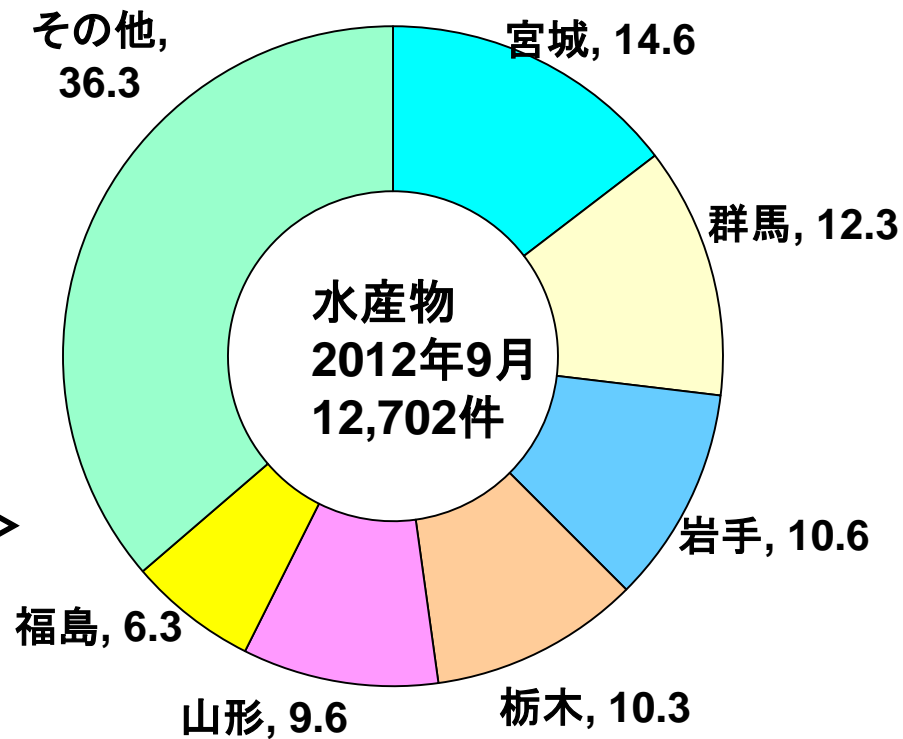


<海底や岩礁に棲む魚、
湖沼・河川の魚に注意>

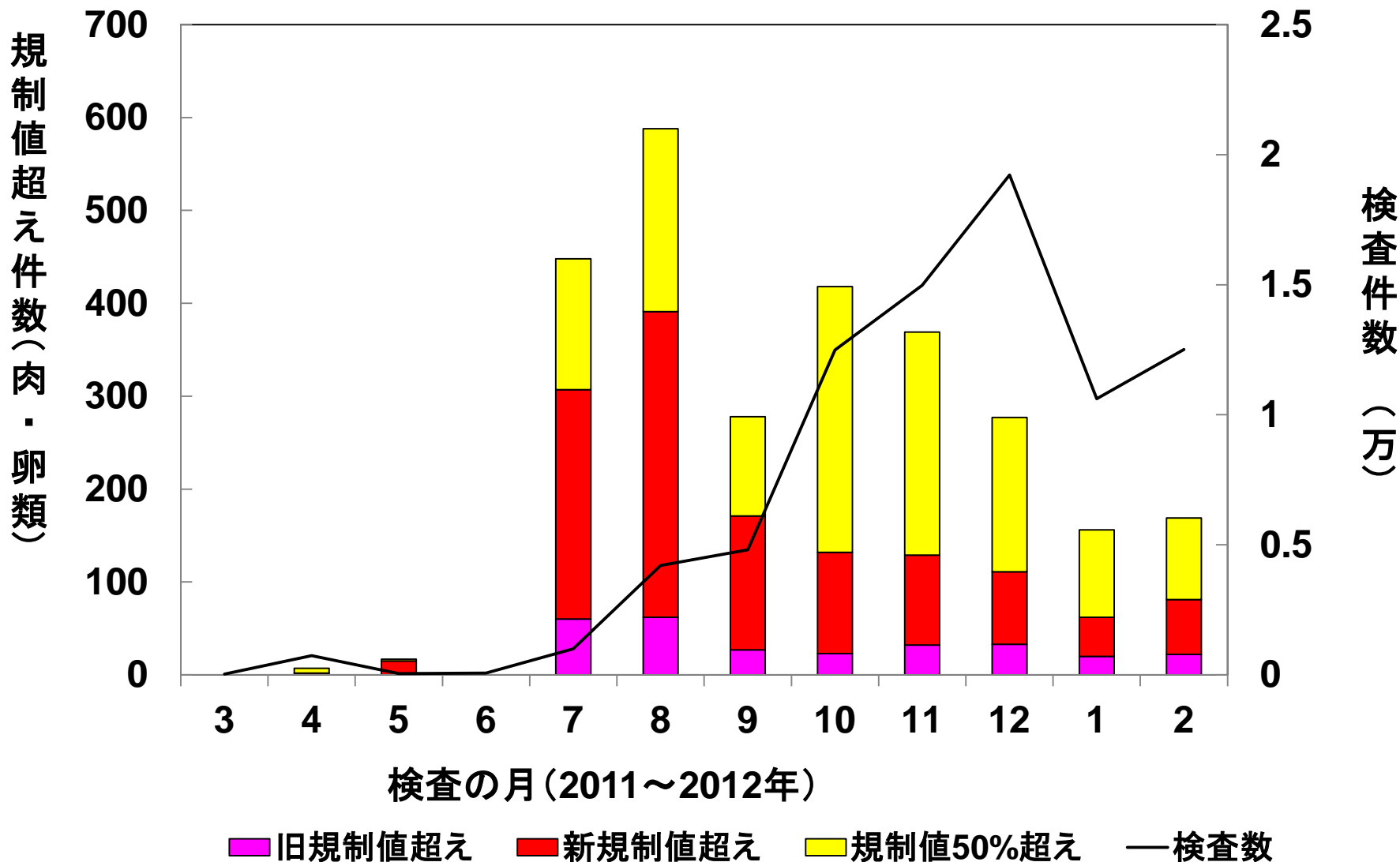
＜規制値50%越え水産物の産地＞



＜検査された水産物の産地＞

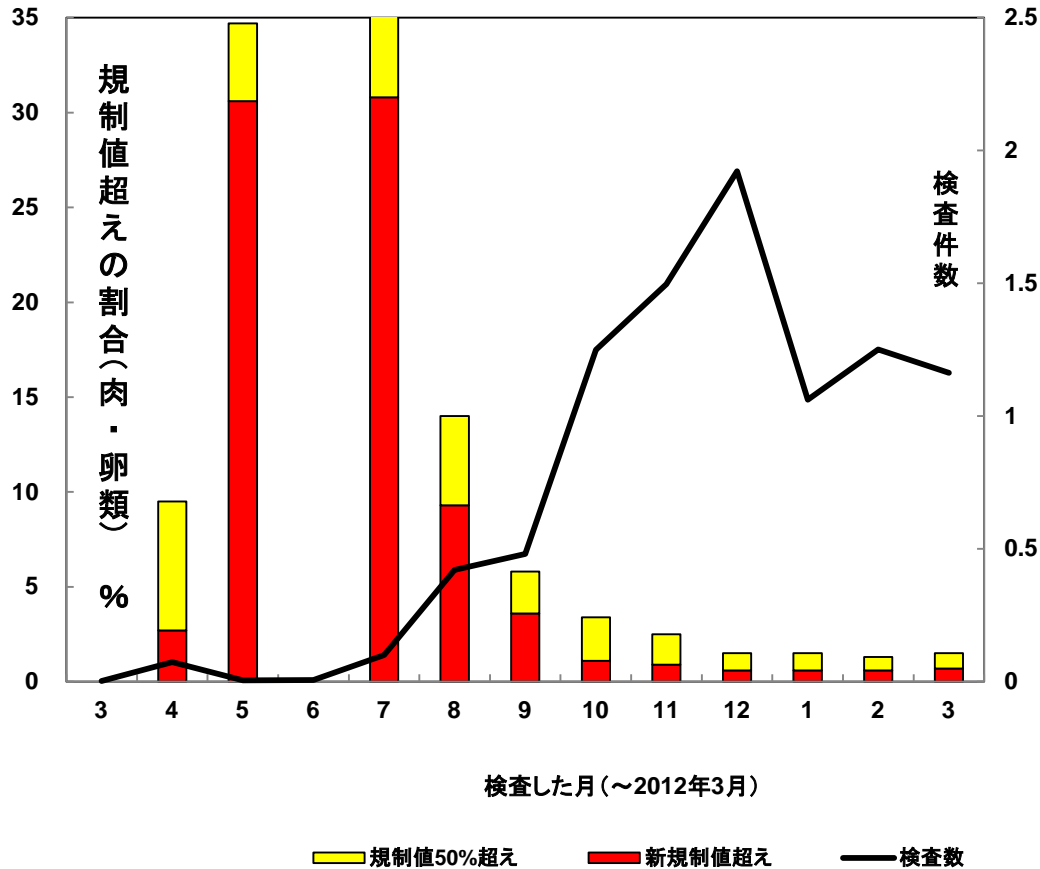


<肉・卵類> 規制値を超えた件数

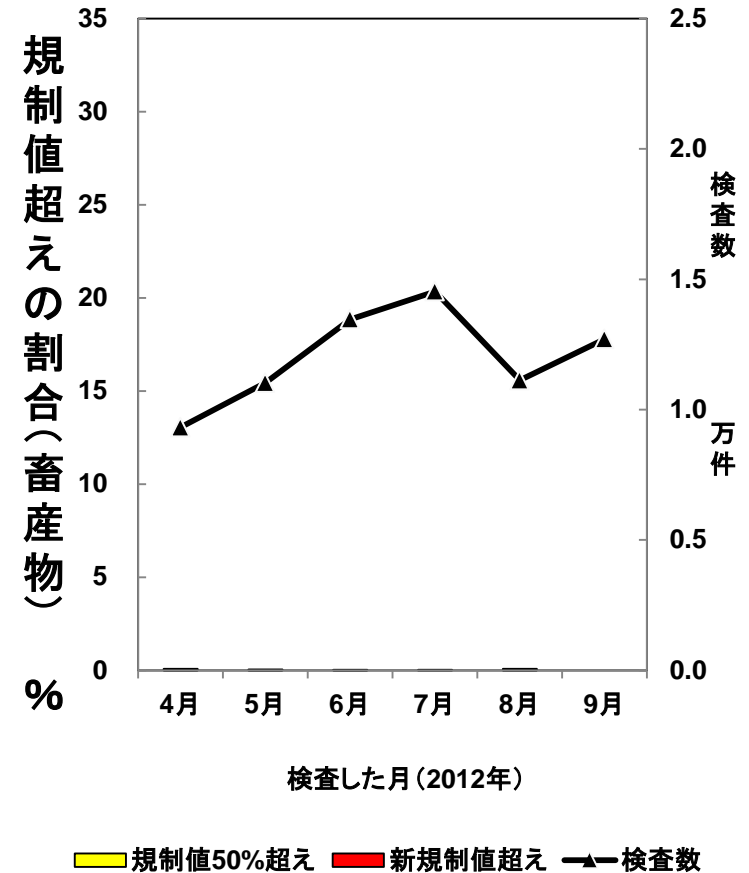


<汚染稲わらが飼料に使われなければ、牛肉汚染は問題とならなかった>

<肉・卵類>

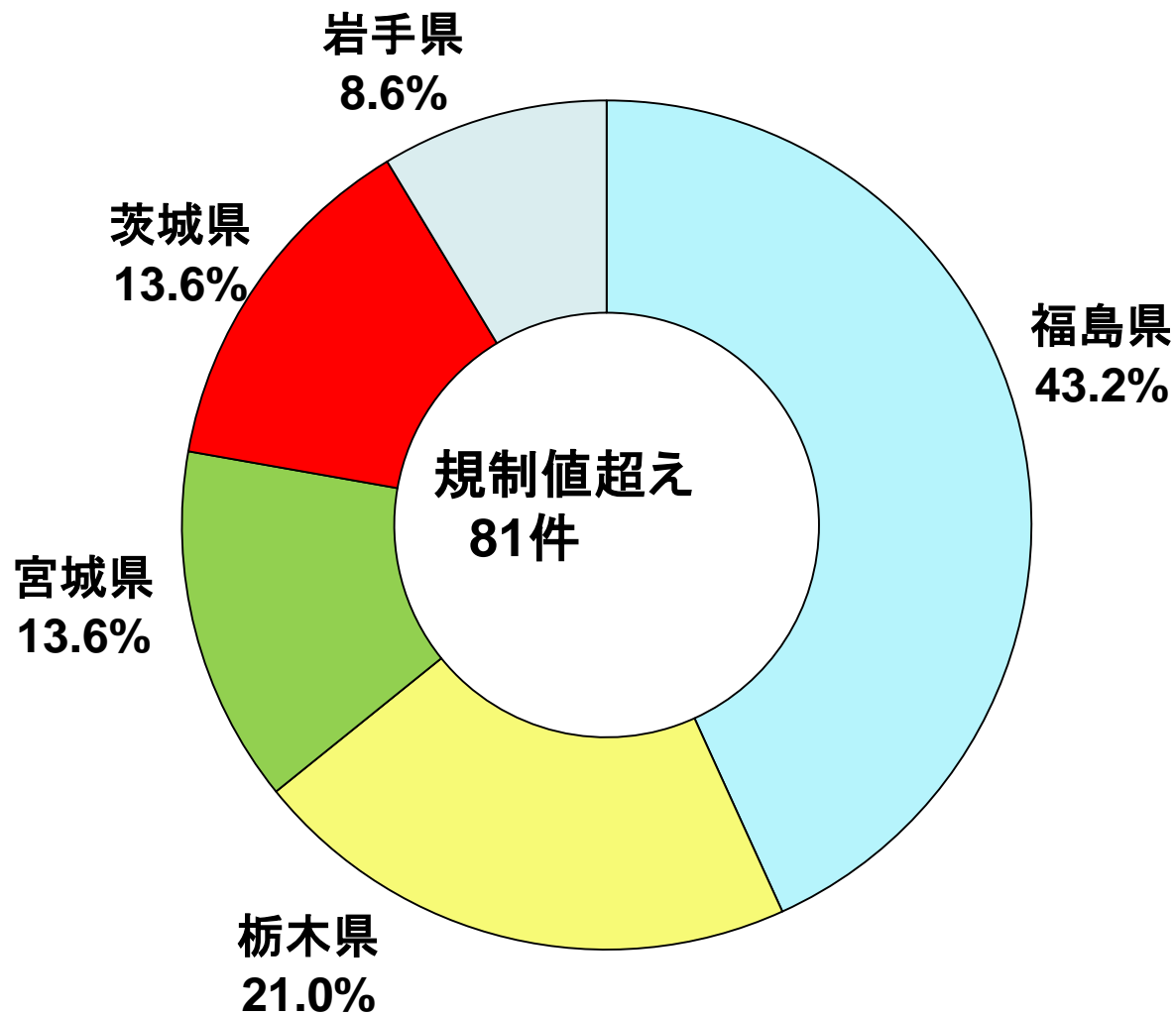


<畜産物>



<規制値超えの割合が低いが、汚染の可能性のない産地を検査していることに注意>

新・規制値を超えた牛肉の発見された県(2012年2月)



牛肉で新・規制値超え

10月17日 宮城県

牛肉、150ベクレル

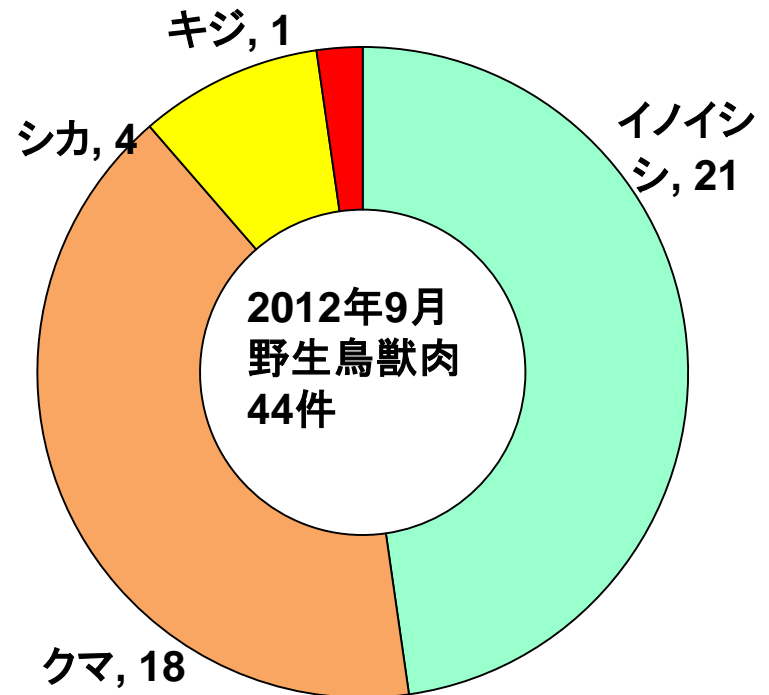
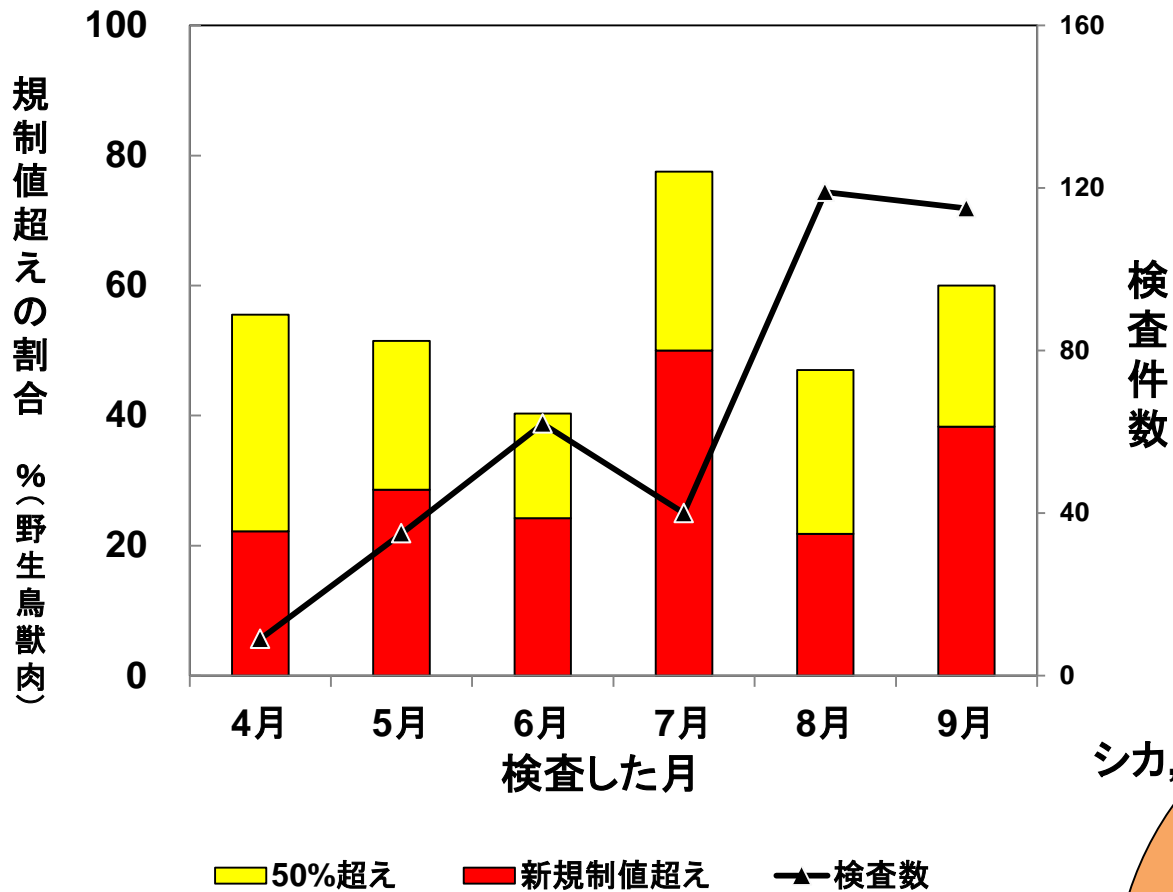
飼料とした、基準を超える野草が原因

10月26日 群馬県

県立利根実業高校(沼田市)が出荷した牛肉から、ベクレル

4～8月は放射性セシウムを含まない牧草を、
9月以降は飼料の暫定許容値内で、放射性セシウムを含む牧草が、使われた。

<飼料の影響を、改めて考えさせられる>



その他, 1

キジなど野

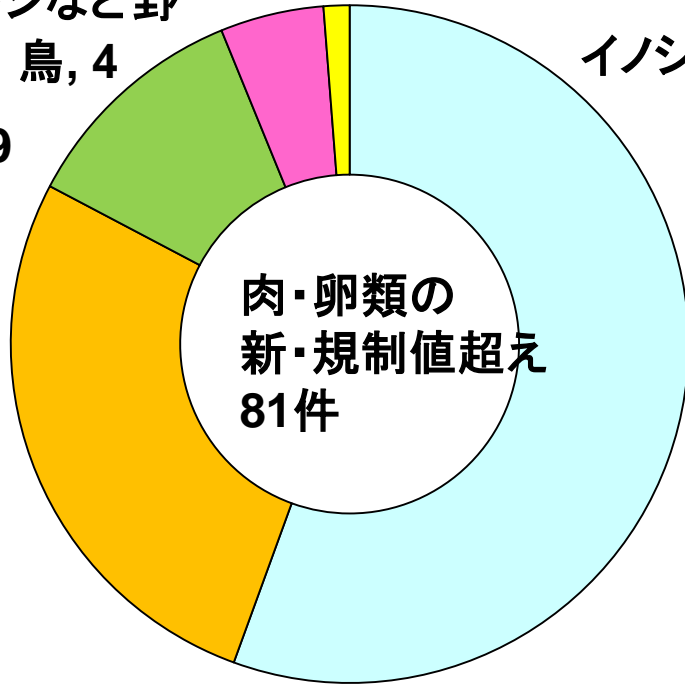
鳥, 4

シカ, 9

牛肉, 22

イノシシ, 45

肉・卵類の
新・規制値超え
81件



<品目別>

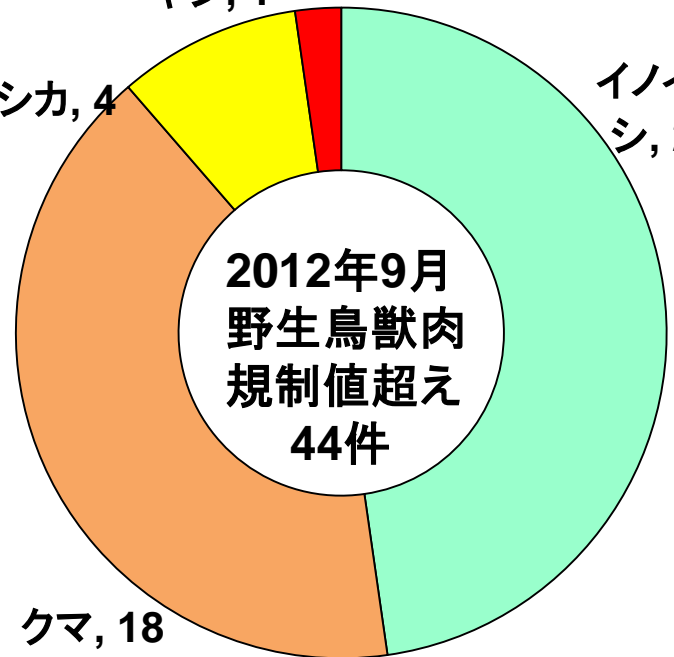
キジ, 1

シカ, 4

2012年9月
野生鳥獣肉
規制値超え
44件

クマ, 18

イノイシ
シ, 21



注意したい食材

1) 水産物

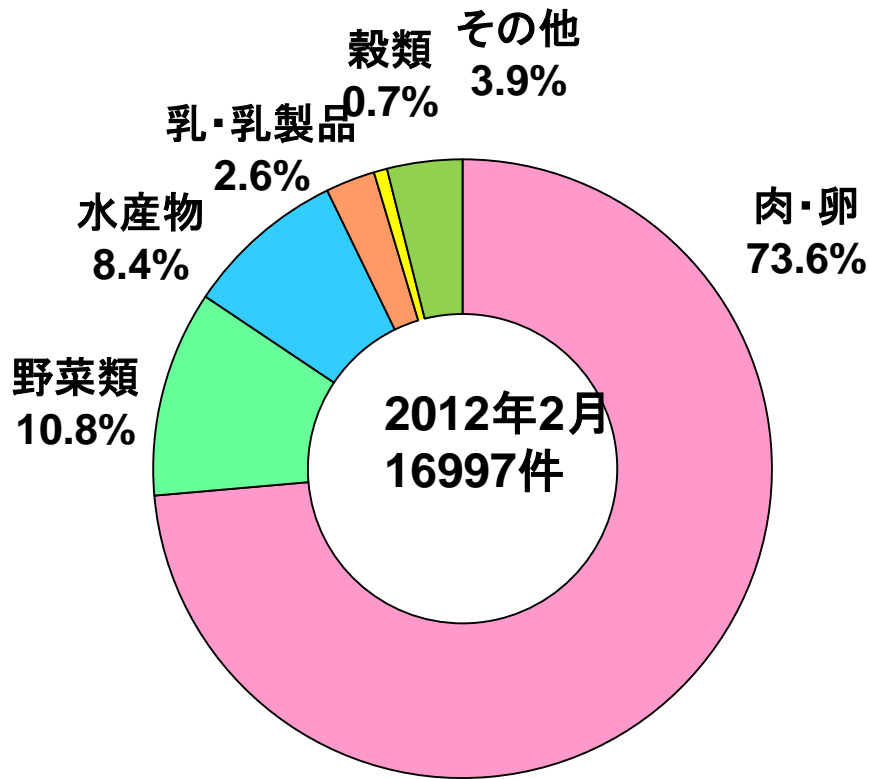
海底、岩礁に棲む魚、湖沼・河川の魚に注意

2) キノコなど、野生もの。

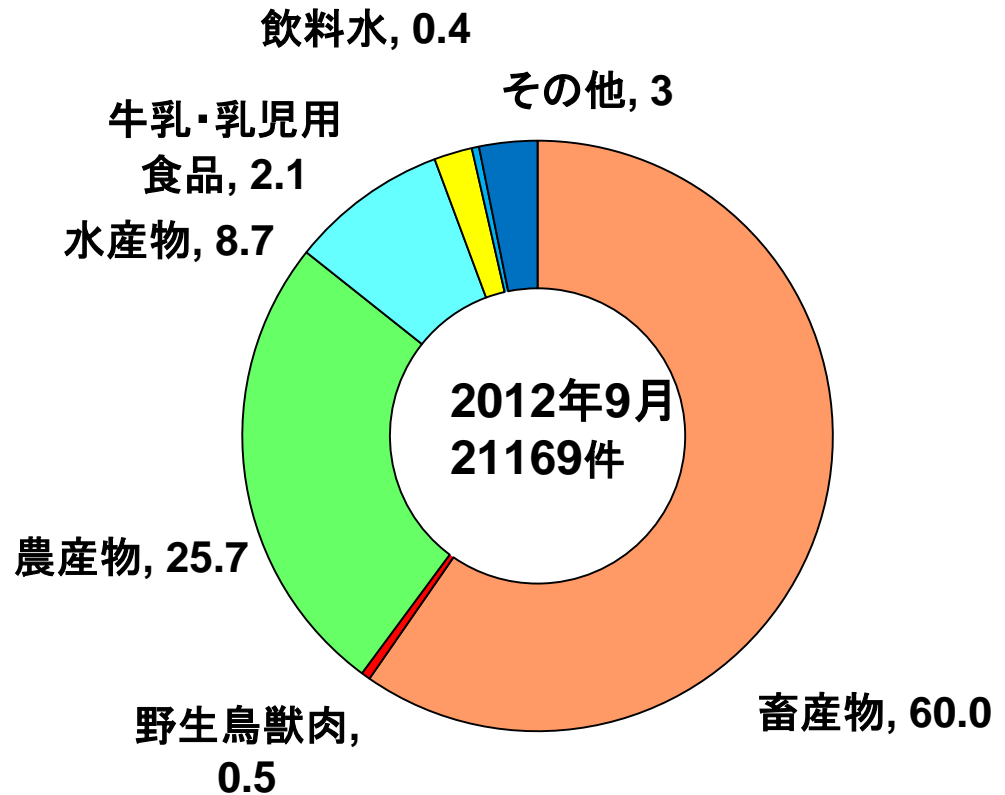
生産材、生産地、飼料などに注意

3) 野生鳥獣肉

検査体制の問題点



<牛肉の検査の割合が異常>

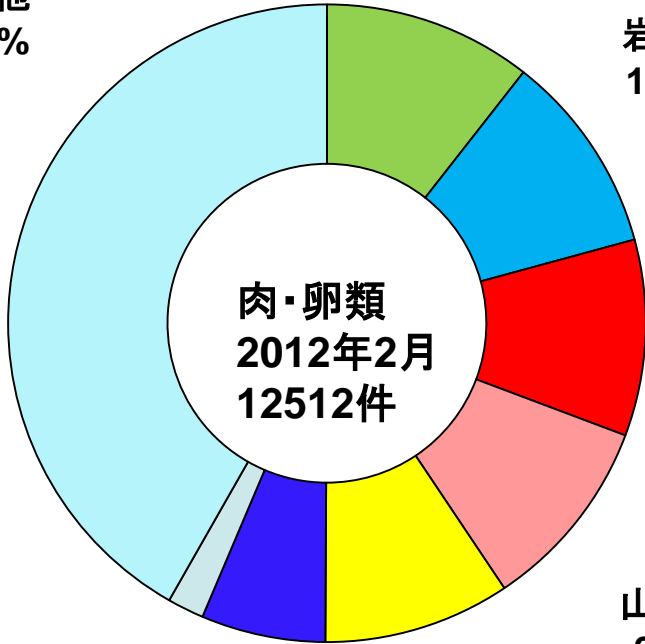


宮城県
10.6%

その他
41.8%

岩手県
10.2%

栃木県
10.0%



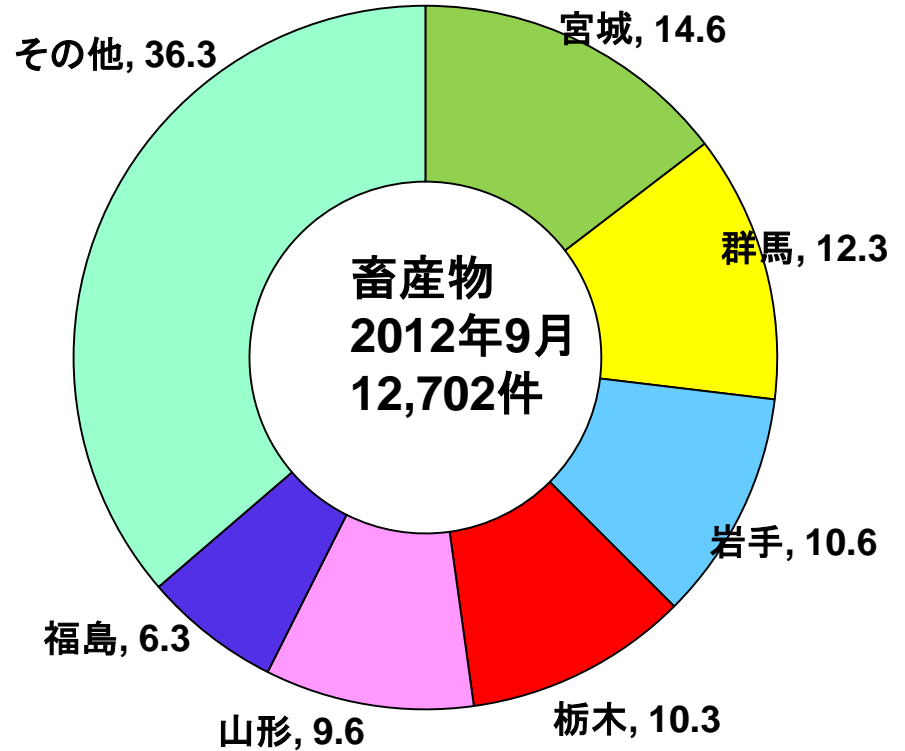
秋田県
1.9%

福島県
6.3%

群馬県
9.5%

山形県
9.9%

＜汚染可能性の低い地域の検査数が多い＞



その他, 36.3

宮城, 14.6

群馬, 12.3

岩手, 10.6

福島, 6.3

山形, 9.6

栃木, 10.3

検査の問題点

1) 検査品目では、食肉の割合が異常に多い
食肉検査を減らし



他の食品の検査を増やす

2) 汚染の可能性がない地域でも検査
牛肉で顕著



検査のバランス
戦略が必要